

「今、私の晴雨計は！」(66)

「一人の少女の訴え」

平山征夫

早いもので令和元年も師走一週間を残すだけとなった。28日に恒例の「第九」を歌って、年末年始は富士山を見ながらのんびり過ごす予定だ。

振りかえって本年を総括すれば、世界も日本も私の大嫌いなリーダー達が声高に「自国の利害」を叫びながら、せこい小競り合いに明け暮れた一年だった。救いは国連のグテーレス事務総長が気候変動問題に極めて熱心であることと、16歳のスウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさんが、これまでになく激しく危機感溢

れる気候変動演説を行ったこと、それにより世界の多くの都市で若者が立ち上がったことだ。

「大人はお金と永遠の経済成長というおとぎ話を追い求め対策を怠ってきた。結果が降りかかる子供達はあなた方の裏切りに気付き始めている。将来世代の目はあなた方を見ている。もしわれわれを失望させる道を選べば絶対に許さない。この問題から逃がさない。あなた方が好むと好まざるとに関わらず世界は目覚め、変化はやってくる」と国連での演説は激しかった。そして「世界のリーダーたちは口を開けば経済成長がどうか利益がどうか金の話ばかりしている」と指摘した件では私も胸がすーとした。

スペイン・マドリードで開かれたCOP25(第25回国連気候変動枠組条約国会議)でも「世界のリーダーたちは地球の危機を理解せず、私たちの訴えを無視し続けている」「我々はそれをこれ以上許してはならない」と激しく非難した。彼女の演説の前では、小泉環境大臣も影が薄い。そして世界の主な都市では多くの若者が参加し、COP25の閣僚会議での真剣な議論を要求した抗議デモが打たれた。しかし共同コミュニケを巡っては、パリ協定に追加措置を求める沈みゆく南太平洋の国々などの悲鳴は、米・中などの大国にかき消されそうになったが、さすがに若者たちの声を少しでも反映しようとした議長国チリの踏

ん張りで、異例の会期延長に依る議論で、更なる努力を求める表現は何とか残った。この間、石炭火力増設非難を浴びながら、一連の議論から日本は蚊帳の外に居続けた(ように見えた)。

本年あれだけ異常気象に世界中が襲われたにもかかわらず、この少女が指摘するように世界の大国リーダー達の反応は鈍く冷たい。彼女に対しても「誰か変な大人に洗脳されているのだろう」と言った反応が多いが、米国防長官は、グレタさんに対して「明るく素晴らしい未来を楽しみにしている幸せな少女」という皮肉とも取れる感想をツイッタ―にただただ。そもそもパリ協定から離脱したトランプ大統領は、

気候変動という科学者の指摘を信じていないうえ、不参加の理由を聞かれ「コストが高すぎる」と漏らしていた。

より関心を引いたのはロシアのプーチン大統領のコメントだ。

「私はグレタさんのスピーチの賞賛に共感できない。環境問題を含めた今日の深刻な問題に注意を傾けるのは正しいが、子供や10代の若者を自身の利益のために利用するのは非難に値する。現代の世界が複雑で多様であることを誰もグレタに教えていない。グレタは優しくして誠実な少女だと確信しているが、大人は未成年者が極端な状況に陥らないように全力を尽くすべきだ」というもの。このプーチンの反応に対する

評価はグレタに反論したい人々の中で「最もまとも」と評価が高い。多くの大人がこの小生意気な小娘の発言を面白くないと思っている証左でもある。だがそれに対するグレタの反応は「情報が少ない少女の意見などと私を批判するのではなく、科学が指摘していることに耳を傾けて欲しいと言っていることを理解して下さい」と鋭い。ついでに私もコメントすれば「プーチンに権力を守ることより大切なことが大統領にあることを誰も教えなかったのか」だ。そんなことを考えていたら、トランプ大統領が「ゆでガエル」に、グレタがジャンヌダルクに見えてきた。

確かに国連の演説あたりから

グレタの表情は厳しく、言葉も先鋭化している。この激しさは彼女がアスペルガー症候群であることに起因している。そのことをグレタ自身が公表している。それには、対人関係がぎこちない、暗黙のルールが理解できない、興味の対象が独特である、などの症状の一方、周りの空気に左右されず集中し一途の行動をしたり、発言をしたりする特性がある。彼女自身「私にとって、殆どのが白黒どちらかなのです」「私がアスペルガーでなかったらこの運動は出来なかったろう」と述べている。そして、独特のこだわりと集中力を持つこの病の人からは、

アインシュタイン、エディソン、ビル・ゲイツ、スピルバーグなど

多くの天才がでており、「アスペルガーは病気ではなくギフトだ」とさえ言われている。「未来への金曜日」の座り込みをグレタは一人で始めたがこの気候変動抗議デモは、今世界の若者を動かし始めている。

これに対しても「世代分断をしようというのか」と反発する大人が多いようだが、75歳の私はグレタの運動に賛同していて、分断の危機など感じていない。何よりグレタと同じ意見を多くの科学者が述べている。「いくら警告しても世界のリーダーはまともな対応をしない」と。グレタは気候変動問題を最もストレートに捉えているのだろう。

本年地球に関する重要な報告

がいくつか出された。国連の新たな報告では、海水温度の上昇が加速しており、「産業革命以前と比較して二〇五〇年の気温を1.5度の上昇に止めようと言うパリ協定の達成はこのままでは困難」としている。世界がいかに複雑で多様であろうと、この問題をどう解決するかは、国益などを越えた人類の最重要課題でなければならぬ。その正確な判断も出来ないリーダーに人類の命を預けることの危機感をグレタは強く抱き始めたのだろう。

この百年、永年かかって貯め込んだ地球の化石燃料をあっという間に使い果たし、温暖化現象を招いた近年の人類の罪は重い。

人口問題では、二〇五〇年の人

口予想93億人が地球上の食料の生産限度でもあり、人口の限界でもあると言われ、これ以上には増えないと思っていたが、本年二〇〇年110億人という予想が出された。しかもその増加の殆どが砂漠化の進展で食料増産に全く適していないアフリカで起こるとの予想だ。そうなれば人々は食料を求めてアフリカからの難民が大量に世界に向かうことが想定される。ホモサピエンスの増加が70億人超えた途端、他の絶滅危惧種の動物たちの絶滅を加速しているという報告もされた。地球のキャパの限界が見えてきたということだ。こんな報告を見てもグレタの演説を無視するリーダー達にはもう何の期待もするま

いと思った。

そして同時に重要なことに気付いた。プーチンの反応は気候変動問題だけではないということだ。核廃絶でも軍縮でも同じ「世界は複雑だ。単純に廃絶できないのが現状だ」と言う。核保有国の優位な地位を守ろうとしているだけの理屈にしか聞こえない。軍縮どころか増強が加速していることについても「抑止力の強化無くして平和は維持できない」という。誰に対する抑止力か。相手も同じことを言って増強し合っている。軍拡に大金を使い、その結果の財政赤字を後世につけ回ししようと言うのだから、我々は酷い無責任世代だ。中でも日本の財政赤字は酷過ぎる。私の嫌いな

「アベノミクス」に騙されながら、来年度予算は更に増加だ。どうやってこの借金を返すのだろうか。もう一度戦争でもしてハイパーインフレでも興そうと言うのだろうか。

更に私が古い先短い中で気にしているのが原発によって生じた高レベル放射性廃棄物の保管処理だ。知事時代、プルサーマル受け入れの際、30年かけて処理施設を建設してほしいと申し入れたが、半分の月日が経ったが何の進展もない。受け入れ場所の目途は全く立っていない。総理はじめ政府に真剣さは皆無だ。自分の任期中に解決しようと言う姿勢は憲法とは対称的で見えない。後世に残すものが温暖化した

地球と、放射能のゴミと借金とは、
本当に情けない。グレタの演説を
しっかり生きようと言う勇気を
与えてくれたようだ。

(令和元年12月26日)

TVで見る度に私はうなだれてしま
まう。でも私が今やれることが一
つだけあった。理事長を務めてい
る「にいがた緑の百年物語委員会」
の木を植える県民運動を盛んに
することだ。沢山木を植えて緑溢
れる故郷を22世紀の子供たちに
プレゼントするのだ。ささやかだ
が地球を守るために出来ること
だ。90歳まで生きて毎年一本、
合計16本の木を植えて、自分の
呼吸分が地球に負荷を掛けない
ようにしてあの世に行きたいと
思い、「卒寿の森」運動に取り組
む決心をした。

一人の少女、グレタの運動は遠
い日本の一人の老人にももっと



師走の石代橋 紅